



愛知県フットサル派遣審判員 高山 篤史さん 語る

久しぶりのレフェリーニュースを掲載します。今回はフットサル審判員として活動していて本年度より県派遣審判員として登録し活動を志した高山篤史さんに今までの経歴・何をもって県派遣審判員として活動を志したのか・今後の抱負等を熱く語って頂きました。ご一読ください。

私は、豊田市在住ですが、子供が豊田市子供会フットサルを始めたのをきっかけに、4級審判の資格を取得し、地区大会等の審判活動を始めました。約10年くらい活動を続けてきましたが、3級審判の資格を取得しようと安易な気持ちで、試験を受けましたが、筆記試験で見事に不合格。又、フィッテステスト（体カテスト）も非常につらくて体力のなさを痛感。もし筆記試験に合格していても、実技試験では、実際の県リーグの試合を2試合審判すると聞きました。今まで子供（小学生）しか経験した事しかありませんでしたので、環境を変える必要がありました。そこでKICKOFFで検索し、愛知県リーグのチームに「審判をやりたいからチームに入れて欲しい」と依頼したところ、快く了承して頂き、晴れて県リーグ（当時、OPENリーグでした）チームの帯同審判として審判活動を始めました。大人のスピードにも徐々に慣れ、競技規則を勉強し、休日には、ジムに通い、筋トレ・スイムなどの体力向上で、3級試験を受験したところ、見事合格（2018年）しました。チーム関係者の方々や、審判委員会の方々には、大変感謝しています。所属していたチームも、3部→2部へとステップアップしていきましたが、自分もさらなる審判員を目指そうと、県派遣審判員として、登録させて頂きました。こんな私に声をかけて頂いた審判委員会の皆様には、大変感謝しております。県派遣審判員となる県1部、2部は今まで経験したことがなく、競技規則の理解がない（フィーリングではなく、理論が必要と感じました。）、全然スピード（ファールorノーファールの判定ができていない）についていけないため、今現在、壁に当たっていますが、競技規則の勉強、体力向上で選手から信頼される審判員を目指して、審判活動を続けてまいります。ご指導よろしくお願ひします。



【 中央 高山篤史さん 】

■新たな発見 「小さな喜びをたくさん貯める？」 編集後記

試合で必要不可欠なのは「2チーム・役員・ピッチ（競技場）・ボール・ゴール・そして審判員です。ウィルス対策・スポーツ離れ等で審判員の取り巻く環境は、厳しくなっていますが、アドバンテージ後試合が上手く進む・競技者とのコミュニケーションをうまく図れた事で試合が荒れずに落ち着いたり「見た目には小さい事」に感じますが、小さな喜びをたくさん貯めて私は審判員（県派遣）をしています。

あなたも審判員（県派遣）に身を置き、新たな発見を見いだしながら活動してみませんか？

きっと「あなたの人生にプラスになる」と、思います。

興味を感じた方は、愛知県サッカー協会へご連絡ください。（文責 フットサル・ビーチサッカー部会）